

事例 23

河川を学ぶ・けんせつ出前講座

背景

上愛子小5年生が「ふるさとの山と川～広瀬川上流域・上愛子の自然と人々の暮らし」をテーマに総合的な学習を実施するにあたり、自分達の住む上流域から河口までの河川やそれを取り巻く環境の変化を観察する体験学習を行うこととなりました。この山と川と田畑に囲まれた緑美しい環境を活かした学習に、仙台工事事務所では「けんせつ出前講座」として支援しました。今後このような学習を積極的に応援・協力していきます。

内容

河川の大切さや、生物に触れることを目的とし、「広瀬川水辺の楽校(がっこう)」で、簡易水質調査、水生生物調査、河川の観察を行いました。また、閑上河口でも河川の観察、川の総合的な学習として、移動の車中での学習、「学水館あぶくま」での学習も実施しました。



雨の中でも一生命物をさがしました



勉強した後のお弁当は、いつもよりおいしい!



真剣な眼差しで、画面を見つめています

ポイント

- 地域の自然観察や調査を通して地域の自然の素晴らしさに気づき、それを守り育てる心を養うことを目的とします。周辺の山や川の自然観察、ダムや水道記念館等の見学を実際に行っています。
- 河川の体験学習により、上流と下流の違いを実際に観察し、さらに教室で川の役割や大切さを学習していきます。
- 河川的环境について、実際に水質調査や水生生物調査を体験し、美しい自然や環境の大切さについて学習できます。

DATA

場所：広瀬川上流～河口まで(宮城県仙台市青葉区上愛子～閑上河口)・教室
 実施者：仙台工事事務所 地域づくり相談室 [TEL (022) 248-4131]
 参加者：仙台市立上愛子小学校小学5年生 35名
 実施日：平成12年7月18日・平成13年1月24日

関係する分野

- 環境
- 交通
- 社会
- 地域
- 歴史
- 福祉
- 健康

成果

雨の中にも関わらず、元気に体験学習に取り組んでくれました。みんな学習したことをレポートにまとめたり、観察した水生生物をイラストにしたりと、この体験を通して学習したことをまとめる力がついたようです。また、建設通信新聞が「河川を授業のフィールドに」と題し、熱心な様子を紹介しました。また、この調査のフォローとして「出前講座」を実施しました。市の教育委員会と連携して学校の授業に応じた体験学習を行ったケースです。

参加者の声

「私は、いつまでもきれいで、魚やいろいろな生物がいて、みんなから愛される川であってほしい。」

「広瀬川は上流から中流、下流と行くにつれて、どんどん川幅が広がっていく。特に、名取川と合流してからが広がった。雨であまり生物を見つけられなかったけど、ヘビトンボ、ヒル、ヨシノボリなどの生物がいた。」

「水が飲めて、うまい魚がいっぱいいるような川がいいです。」



いきいきしたタッチで描かれていますね

○HPで出前講座について案内しています



○詳しくは、下記アドレスへ
<http://www.thr.mlit.go.jp/sendai/index.html>
 ○問い合わせは
 国土交通省仙台工事事務所
 地域づくり担当官
 TEL (022) 248-4131



「建設通信新聞」今回の様子を紹介した

次のステップに向けて

- 河川が、もっと子供たちとふれあえるような河川学習を支援していく必要が求められています。
- 自分たちの住む地域をもっと知るために河川をピックアップし、過去の水害や舟運など河川の歴史や河川整備についての学習も考えられます。
- 今回の取り組みから美しい環境の大切さと取り組みを学習することも考えられます。